世界婦人

●女子大に讀むべく男子盛んに讀まさる可からす

家庭と飲酒

安部磯雄

習慣といふものは恐ろしきもので、酒の如き有害物も廣く社會に用いられて居るため人々は殆んど何の考へもなくこれを飲んで居るのである。若し醫學者の言ふ所を注意して聽いたならば、何人と雖も恐怖せずには居られまい。

陸軍々醫千日亮氏は飲酒家の子供に瘋癲者及び結核病者の多いことを論じて居る。醫學博士片山國嘉氏は酒飲が人命を縮ることを説いて居るが、成程飲酒が人命を縮めたるの例は實に少くない。島田三郎氏は自ら禁酒するに至りたる原因を陳べて、酒の爲め友人が多く早死したることを示した。即ち沼間守一氏、河津祐之氏、田口卯吉氏などは酒の爲め生命を縮めたのであるそうだ。飲酒の恐るべきは飲酒家自身の生命を縮むるに在るよりも、寧ろ其禍を子女に及ぼすといふことである。精神病者の過半は兩親の飲酒に因るもので、酒は少量であつても絶對的に有害なりとは醫學博士土田卯三郎氏の言ふ所である。よし飲酒のため子女が精神病に陷ることなしとするも、知力の上に少からぬ影響を受くることは爭はれない。醫學博士柴山五郎作氏は或時の演説に『飲酒家に善き子供は出來ない』といふてさを切言した。

飲酒が今日に於て普通の習慣となつて居るけれども、少しく思慮ある人ならばこれを節し若しくば禁ずるに相違ない。近頃有名なる大酒家にして斷然禁酒した者が少くないが、何れもこれが爲め身體の壯健と、頭腦の明晰とを得、從つて生命を延ぶることが出來たと證言して居る。然れども多數の青年は斯る言に耳を傾くる樣なことはない。彼等の多くは何の考へもなくして飲酒の惡習に染みつゝある。彼等は自ら身體の健康を傷くるに至るまでは目が醒めないのであらう。

飲酒の惡弊と戰ふには種々なる方法があるだらうが、最も有効にして而も容易であるのは家庭に於て子女に禁酒の習慣を養はしむることである。既に飲酒の習慣に染んで居る者は今更これを強いて禁酒せしむるにも及ぶまい。即ち死者としてこれを過去に葬つて置くのが得策であらう。然し家庭に生長しつゝある小兒は全く無邪氣であつて未だ飲酒といふが如き不潔なる習慣に染んで居ないのだから、これを保育して惡習に陷らしめぬ樣にせねばならぬ。此點に於て母の責任は父の其に比して遙に重い。酒は啻に身體のみならず、精神をも毒する所のバチルスであるから、母は己が生命を堵してまでも其愛兒を此毒手より免れしむべきではないか。されば母たるものは全力を盡して酒類の家庭に侵入することを拒がねばならぬ。若し夫にして酒を嗜む人ならんか。妻は其子女の爲に宜しく其夫を諫むべきである。少くとも子女の面前にて夫が飲酒することには反對せねばならぬ。若し子女の幸福を中心より祈る人ならば、來客を饗應するに酒を以てするが如きは斷然禁止すべき筈である。想ふに飲酒の惡習を排斥するに當りては女子の責任は遙に男子の其に優つて居るのである。婦人は自身の幸福の爲に、亦其夫と子女の幸福の爲に奮つて飲酒の弊風と戰ふの勇氣はなきか。

閑窓録

神川松子

▲不知花

某日友の吾に戯れて曰はく、『天下廣しと雖も、恐らくはおん身のように、頑强粗野なる人を、戀する者はなかるべし。げに見て女性にあらず、思ふてまた男性にあらず變形君の如くんば、人間も終に如何せん』と、吾は唯苦笑して更に云はず、心胸冷かに笑ふところ、尚は一脈の熱血はあり、青春血に燃ゆるところ、また爛熳の花はあり無情乎不戀乎、俗臭き友人の敢て知るところにあらず。

▲自然

狂亂の胸を抱いて、獨り廣茫の野に佇めば、湧き來る幽寂の思は、遠く人界を去つて、また更に俗臭なし、唯風韻情景の親しみ我が板胸を撫して、狂腸自ら一日の閑を得たり、吁々恒久に變らず、清く美はしきものは、げに自然の温懷にてあるぞかし。

▲寂光

靜寂の夜や、オゝ靜寂の夜や、無音の星無聲の空、秋高くして想はしげし。寂光の影また萬斛の悲愁をとゞめて、愁人長く和平のかげを見ず。年若きわが胸は常に亂れて、今や天地の間に狂奔せんとす。あはれ哲人高士の冷たき訓言も、聖人君子の死せる説法も、或は友の慰藉も、ホームの和樂も、我が幽懷を慰消するに足らず、亂れし胸、疲れし魂、あゝ遠く恨みを抱いて、この世を呪はずんばやまず。いづれは社會より受けし傷心のこの身、現社會の滅せざる限りは、我が痛傷苦悶は癒へざるべし。

無題録

溪水

▲奮闘すべし浮世と雖戰し、自己と苦闘すべし、絶へざる忍耐と、屈せざる勇氣とを以て進め、理に落ちて迷ふ暇に努力せよ、自己の信念、主義主張のために棄つる生命はおしからず、如是きは糞を米に代へ、砂を黄金に換うるに同じ、道はたゞ一つあるのみ、自己の煩悶と慾情とに迷ふ勿れ、自ら其の信念の證明者となりて、立て。

▲かりそめの隙なく努力せよ、我れ等の大敵は、安樂と、放逸となり、焦慮し苦心し奔走して、始めて人なり、現世は笑ふべき虚榮の大からくりなり、いと輕きものなりされど我れ等の心中に反映するものは皆、嚴然として之れを處理せざるべからず、人各道を有す、信ずるところを行ふべし。

▲女の何事につけ、幽にやさしきはげに、さるものながら、あまり理にうとくして萬事に犯され易きこそ口惜しけれ、正しき信念を抱いて理想を戀慕し、うなだるゝ顔ばせの底に折れぬ魂あつてまことに人の母たり、姉たるべし、斯かる友持たぬ我れ等はいと淋し。

▲親に引かるゝ娘、夫に從ふ妻、兄に連れらるゝ妹の主義主張ばかり不安定なるものは世にあらじ、人のために主張し、人のために主義を唱ふる者多し、是れを之れ眞の『我』を沒却せる者と云ふ、三思せずして可ならん哉、可ならんや。

▲人は確信を得たる時、同時に力倆を得、又勇氣を得而る後、大膽に其の所信を述べ其の主義主張のために萬事を放棄し得べし『世界婦人』の本領はこれなり、己のが所信を忌憚なく吐露するにあり。

灯

手塚千重

今日の仕事もおはりたり
片手に鍬をつえつきて
わが家の方を眺むれば
夕餉のけぶり紫に
いさゆるやかにたなびきて
笑めるがごとき灯の影は
我を呼ぶらん心地こそすれ

恨

戀しりそめし乙女子が
おのが姿を水かゞみ
うつす野澤の眞清水に
さゞ波よするうらみさな

囈語

月郎庵

●自由の木は壓制者の血液を其根に灌ぐ時にのみ最も能く成長す、とは佛國革命黨バーレル氏の言、吾人は此語の根底に流るゝ深遠の意味を味ふとき、言外の言あるを知る、露國の如き暴惡官吏の跋扈せる國に、暗殺の行はるゝは自由の木の成長を助くる唯一の手段方法ならん、我が日本に幸に[illegible]治下の善良なる臣民多きが爲め、二千五百年來露國の如き拙劣なる行動を見るに到らざるは必竟東洋第一の文明國と誇るに足るならん、されど今後は吾人の豫期する所に非ず

●バイロン曰く、世襲の奴隷も自由を望まざるに非ず、然れども一撃を試むべきことを知らざるなり、露國農民の多數は世襲の奴隷なり、されど彼等は未だ一撃を加ふ可き權利を知らざるなり、之れ恰も檻内の猛虎其檻を破壞するを知らざるが如し、彼等若し自己の能力を自覺せんか、露國の國家は絶滅に歸し、世襲の奴隷は鐵鎖を脱して天を飛ぶ鳥の如く、自由の天地を活歩する日至らんとを吾人は想像す

●自由の爲に劔を拔くは眞正の勇者なり

●貧人は法律に抑押せられ、富人は法律を指揮す、露國の貴族、富家は法律を[illegible]貧民を虐げ、彼等の作產物を掠奪して[illegible]自己の嚢中を肥ならしむ、此國に[illegible]して亦何處にか得ん

●子は父の財産に非ず、妻は夫の財産に非ず、露國々民は露國[illegible]の財産に非ざるなり

●本誌は世界主義を標榜して婦人解放を主眼とす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

海外時事

今秋のスツットガルト

「婦人の萬國的活動」

萬國社會黨大會は去八月十八日、老猾カイゼルの知召す獨逸の國ヴユルテンベルヒに開かれ、世界革命の氣を當日の會場リーデルハーレの一堂に集めたるが、各國の代表者九百名のうち、社會主義革命運動を代表せし婦人、數十人の多きに達したり、且つ之に先づと一日、萬國社會主義婦人會議は同じスツットガルトの市に催されたるとて今秋のスツットガルトは世界のはてより、婦人革命運動の精神を集めたり。

「ツエトキンスの働き振り」

婦人會議は八月十七日午前九時開會、クラヽ・ツエトキンスは滿場一致を以て議長に推されたり、彼女は社會黨の運動には古き歷史を持つ人にて、今はスツットガルトなる日刊新聞『平等』の主筆たり、此新聞の發行高は三年前には一萬一千に過ぎざりしが、翌年は三萬三千となり、昨年は四萬六千に增加し、目下は毎日六萬を發行せり此一事獨逸に於ける急速なる婦人の覺醒を知るに足るものあり、ツエトキンスは三年前和蘭アムステルダムに於ける萬國社會黨大會にも出席して演說の翻譯等を助けしが今回の大會にも第一日より獨逸社會黨の首領ベヽルの長演說を佛蘭語に翻譯する等、花々しき活動を爲せり、又彼女は此一日婦人大會を司會し、演說を翻譯し、其上日刊新聞に筆を執り、翌日は更に社會黨大會に斡旋の勞を取るなど非凡の精力驚く可きものありと謂ふ可し。

「大會の花形役者」

花の如き美人ロザ・ルキゼンブルグも此うちにあり、彼女もアムステルダムの社會黨大會にもツエトキンスと共に演說翻譯等の勞を取りしが、今回も其第一日に白耳義の社會黨首領ヴアンダヴエルトの佛語演說を獨逸語に翻譯したり、彼女は數年前獨逸政府より不敬罪に問はれ、其後も革命運動の爲に獄に投ぜられ此程出獄せしばかりとて、獨逸勞働者の敬慕を一身に集め、大會に於ける花形役者の一人たり。

「勇ましき武者振り」

其外露國の代表者バラバノツフ夫人あり此人は過ぐると倫敦にて開かれたる露國社會黨大會に出席せし一人にして、精悍なる革命黨の戰士なり、佛蘭西の代表者の一人、シトエンヌ・ペレチーエは頭髮を短剪し、黑の上衣に白のカラーを着けたれば一見男子の如く、又男子の如く勇悍なり、外にも佛國の代表者中には灰色の帽子を斜に被り、社會主義を表はす爲に赤き上衣を着けて、戰場に於ける兵士の如き服裝をなしたるもありしと、

「印度婦人の活躍」

又其中には印度の代表者シカーエ・ルストム、カマナルあり、殖民政策問題が第五日目の社會黨大會の議題に上るや彼女は奮然として演壇に登り、其種族の旗を頭に纏しつゝ、叫んで曰く、吾等印度人は全世界人類の五分の一を代表せり、然るに英國印度兩資本家虐政の下に毎月五十萬人宛を減少せりとて、英國の印度虐政を痛擊し、爲に全會の形勢を一變して、一〇八に對する一二七票の多數を以て大會は有ゆる形體に於ける殖民政策を否認するの決議を通過したりと謂ふ、此の邊り菫女史に一目見せたき光景ならずや。

「會議の重要問題」

社會主義婦人會議は午前九時より開かれ午後十時に及びたるか、當日の重なる議題は云ふ迄もなき婦人選擧權問題なり、此問題にては議論自づから二派に分れ、軟派とも稱す可きは現今の選擧法を基礎として、現に男子の有せる選擧權と同樣の權利を女子に得せしめんとするもの、從て財產納稅額等にて選擧權を制限せらるゝことを辭せざるもの、何んでも選擧權さへ得れば先づ得心すると云ふ說なり、之に反對するものは、成年男女に財產の制限なく選擧の權利を與ふる普通選擧權にあらざれば滿足せずと云ふ說あれば、之は硬派とも稱す可し。萬國社會黨大會にも此問題は日程に上りたるが、同じく右の二說に分れ議論沸湧せしが委員會にては軟派は少數にて否決せられたり、本議の結果は未だ知る能はざれども恐らく委員會通り硬派の意見が勝を占むることなる可し、社會主義婦人大會に於ても激論の末軟派の意見は少數にて破れたり以て選擧權問題に對する萬國的の思潮を推察することを得可し。

「千秋の恨事」

萬國社會主義婦人會議に萬國を代表せし婦人革命家は總て幾人ありしや、未だ詳報に接せざれども英國のみにても十四人の多きに達したり、うち九名は獨立勞働黨及び婦人勞働同盟に屬し（軟派）、五人は社會民主同盟及び婦人普通選擧協會（硬派）に屬せり、其他瑞西、墺太利、匈牙利、ノルウエー、白耳義、伊太利、ボヘミヤ、北米合衆國、丁抹、ニーザランド等よりも各々代表者を派して活潑なる婦人運動の現狀を報告したり。記者は此中に『日本』の二字を脫せるを無限の遺憾とするものなり、萬國社會黨大會には日本よりも男子代表者を送りたるに、此萬國的の婦人大會に日本婦人の與かり得ざるとは、吾等同志の一大恥辱と謂はざる可らず。

海內時事

●災害頻々

七月大洪水以來、新聞紙の災害を傳うる事頻々たり、函館に大火あり、小坂鑛山には水火一時に起るの慘害あり、紀州海岸には高浪來りて田園を洗ふあり、昨今又各地の水害を傳う、而して戸々若干人命の損傷を伴う、恐る可く、憐れむ可き也。吾人は思ふ、災害の因は天也、防備の盡し得ざりしは人爲也、若し軍備擴張に替へて山林を整備し、河底を浚渫し、朝鮮を併呑するに替へて、租稅を輕うし、國民をして不慮に具ふるの防備を全うせしめば、民人の幸福は大なりけんを。

●勇敢なる婦人

神田區猿樂町の某下宿に止宿せる某女學校生徒大原まつ子孃は同宿人長野縣臼田ト堤勝衞の爲めに强姦せられたりとの告訴を提起せりと云ふ

此の報を聞ける吾人は堤の狂暴を憤ると共にまつ子孃の勇敢なる決斷に對して多大の尊敬と同情とを拂はざるを得ず、肉交に就て解す可からざる迷信が行はるゝ現代に於ては、婦人にして若し只一度と雖も肉交の事を經たりと稱せらるゝ時は社交上死刑を宣告せられたるものなり『彼の女は汚されたり』此くして後指さゝるゝ事が、弱き優しき婦人として耐へ得べき事ならんや。されば惡む可き男子の陵辱も紅涙の中に自ら忍びて此れを公にせず、責めらるゝ筈の男子は尙ほ闇々裡の中に多くの狂暴を逞しうす、此くの如き時、我がまつ子孃が腐れたる道德習慣に目もくれず『妾れは汚されたり』と自ら公にして敢然男子の狂暴を責むるの勇氣は、吾人實に全女性の權利の爲めに感謝の念に耐へざる也、婦人解放の運動は將に此くの如きの勇士に依つて成されざる可からず。切に孃の自愛を祈る。

●理學博士男爵菊地氏の演說

……勞働問題と女子問題……

銀行倶樂部晩餐會に於ける男爵博士菊地大麓氏は次の如き演說を爲せり

今回英國に渡りて最も感じたるは勞働問題と女子問題なり余今度三十年目にて彼地に渡りたるが其間女子社會上に於ける地位が著しく變化するを見たり以前は女子にして大學の教育を受くるが如きは殆んど例外なりしが今日は女子の大學に入るは普通の事實にしてバチエロアの學位を得る者は女子其半數を占む其結果として女子が社會に出で、男子の職業を侵蝕すること多く結婚の時機は遲れ女子の教育は等閑に附せらるゝに至り社會上容易ならぬ結果を惹起するに至りたるが此の如き女子の職業問題女子の教育問題は早晩我國にも起り來たるべき問題なるべく今日より充分研究を要することなり次に資本家[illegible]働者の問題は彼地に於て近來著しく表はれ來り例へば[illegible]職業の勞働者が隊をなして公然市中を横行するもの[illegible]き吾人の實際に見たる處なるが政府も之が爲に大に心を痛め來年度よりは老年給の制を設け勞働不能の老年者に國庫より給するもの五十萬磅に上るべしと云へり兎も角此厄介なる勞働問題は又遠からず我國に起り來るべく今より識者の留心に堪へざる處なり、要するに我國に於ける忠君愛國の至情、宗教を離れたる倫理主義の精神教育女子教育に於ける良妻賢母主義は大に泰西人士に誇るに足ることとなりと雖も由來英國民は健全なる常識の發達せると我國人の比にあらず且我國に於ては全般を通じて五千萬國民の教育費を出すに過ぎざるに英國の如きは僅々一市にて已に五千萬圓餘の巨額を教育に投じ居る位なれば未だ以て輕々に我國教育の隆盛を見るに足らず何は充分の覺悟を要す云々

容易ならぬ結果を惹起す可き婦人問題と云ひ、兎も角も厄介にして痛心に耐へざる勞働問題と云ふ、少しく目先きの見へたる紳士閥が階級維持の爲めにする憂慮の體は同情に値す可し、吾人は博士に問題解決の『御守り』を呈すべし、曰く大膽なれ！

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

妻の敎育

原　夢想

夫婦同權とはナカ〳〵喧ましい問題でありますが夫婦の關係については男女同權でなくてはなりません即ち夫婦は互に其貞操を責める權利があらねばなりません夫には妻の不貞操を責める權利があつて妻には夫の不貞操を責める權利がないといふやうな事は實に婦人を侮辱した事でありますから此點に於ては何處までも夫婦同權でなくてはなりません、けれども夫婦が他の資格を以て相對する時には決して同權ではありません、即ち家庭の事務について家長と主婦とが相對する時には家長は總理大臣兼外務大臣の如く主婦は大藏大臣兼内務大臣の如く又は家長は大臣で主婦は秘書官のやうでなくてはなりません、それで夫には常に妻を導き妻を率ゐる心得が要り妻には又常に夫に導かれ率られるといふ心掛が必要であります。

似たもの夫婦とか申して夫婦は何時の間にか互に感化を及ぼし合つて遂に相似よつた性癖を有するに至る者が多い、御主人の辛いずきが奥さんのやうに甘好になる、妻君の茶嫌ひが亭主のやうに茶好になるがごとく無論夫婦は斯ふなくてはならぬ、けれども之は親愛、和合といふ上からの事であつて他の一方から少しく考て見ますと、夫は常に妻を敎へ誘ふ心得がなければならず、妻は常に夫に敎へられ誘はれる心得がなければならぬ、此に於て妻の敎育といふ言葉が出て來るのである。

何故夫は妻に優るか、と云ふに男の方が才智も多し、氣象も強し、體も丈夫で大體に於て女に優つて居るのに、多くの場合夫は妻より年上で妻より多くの敎育を受けて妻より多くの世間を見て妻より多くの經驗をして來ておるからである、即ち夫婦は或る點に於ては兄妹、又は師弟の關係である、夫婦の間にも色々の資格があつて單純に夫婦として相對する時は全く同等の地位に立つのであるが家長と主婦、兄と妹、姉と弟として相對する時には妻は常に夫に從い夫は常に妻を導く者である。

敎育者としての夫の心得、我は男子である妻は女子である我は年長者である妻は年少者である、我は屢ば世態人情にも通じて居る、妻は未だ多く世間を見た事がない、我に定つまで意見も定まつた職業を以て屢ば世に處する方向を一定して居る、妻はまだ何事に對しても一定した考はない我は是から妻を敎育して、我と共に世に處する道を諭せねばならぬといふ心得が夫に必要である。

家風といふ事は少し以前まではナカ〳〵喧しく、離縁の條件にも家風に合はぬといふ言がよく口にせられてあつた、今日の新夫婦は新家庭を作つて新たに新家風を起すのである、何も舊家風に合はねばならぬ必要はなしと申して又多少其所に昔の家風と同じやうなものがある、其第一の條件は職業柄である、商家には商家の風があり、農家には農家の風があり、官吏には官吏の風があり、軍人には軍人の風があり各々其職業柄に從てそれ〳〵其趣の異つた所が必ずあつて又自然に一定した習慣と氣風とがある夫たる者は自分の職業に伴ふ習慣と氣風とをもつて先づ其妻を敎育せねばならぬ、次に職業柄よりも更に大切な生涯の主義方針がある今の世の中では人によつて色々の主義方針がなければならぬ、尤も場合に依ては職業其物が即ち主義方針となる事もあるが多の場合は職業と主義方針とは直に同じものにあらず、それで職業と習慣とに就て我妻を敎育した丈けではまだ同心一體の人として許すとはできぬ、例へば小學校敎師があるとして其人の主義方針は一生涯一生懸命或は專門の學科を研究するにあるとする場合には敎師といふ職業に伴ふ習慣と氣風とを妻に敎へる外に質素に物靜かに氣永に心長閑に生涯を送るべき事を敎へねばならぬ若し其妻君が一生に一度は馬車に乘つて見たいなど、考へて居るとしたならば如何、若し又細君が夫に大禮服を着せて天長節に參内をさせて見たいと考へて居るとしたら如何、專門學者たる學校敎師の身としては甚だ心苦しい場合が多くはあるまひか或は又妻の望みに副はんが爲に遂に我志を曲げて文部省の御役人にでもなつて見やうかといふやうな事にならぬとも限られず、そこで學者の妻には學者の趣味を吹き込んで浮世の榮華をよそにするほどの心を養はせて、夫と共に高尚なる安心と滿足とを成せしめるやうに導かねばならぬ、然れども此妻敎育といふ事は甚だ困難で何人もまだ滿足に成した者はないといふ程にもならねと、この妻の敎育は男子が世に立つて事業を爲すに就ての第一着手であると思つて、十分に力を用ひて其成功を期せねばならぬ

是に對して、敎育せられる妻の心得は、如何といふに自分は夫の敎育を受けねばならぬ、成るべく早く成るべく善く、夫の身分職業と主義方針とを呑みこまねばならぬといふ事を十分に覺るが第一である、次に自分は人の妻となつた身であるから直接に社會に對して事業はせぬが、夫の事業は即ち我が事業で自分は矢張り夫を助けて夫と共に夫を通して社會に事業をして居るのであると思はねばならぬ、故に自分は成るべく夫の相圖に從ひ成るべく夫を自由にしやり、なるべく夫の防げをせず成るべく夫をして思ふまゝに事業に當らさねばならぬと思はねばならぬ、斯の樣に夫の身の上と夫の心とを呑み込んだ妻君が所謂賢夫人で大に内助の功を立てる人であるなり。

女性　舊き衣

はのは生

纎弱き者よ、汝の名は「女」なり。

月に霖雨、花に風、脆く、優しきを命とせる花の少女に、何すれぞ、かくは浮世の嵐のつらき。舊き道德や、舊き習慣や、舊き制度や、これ皆鞭撻の笞、柔かに、血に温かき婦人の膚に何ぞ無情なる。

われ可憐なる「女性」を見る毎に、思は遠く過去に馳せて、鐵鎖に縛され、疎飯に飢え、しかも營々乎として働く奴隷の面影を忍び且つ泣く。

あゝ、囚はれたる哉、女性!

。　。　。　。　。

婦人の解放! 然り!!

しかも如何にして婦人を現状より解放すべき。細き「女性」の双腕を縛せる冷たき鐵の鎖は、何によりて破棄せられ得べき?

そは古き問題なり、而して、又、同時に常に新しき問題に非ずや。

選擧權の獲得とや? 政治運動とや? 宜し。

然も、投票が婦人諸君の手に作られ、婦人諸君が堂々、議會に列し、三寸の舌端、權力者、横暴者の心肝をして寒からしめ得とするも、婦人の全解放、果して望み得べきか。

吾人は選擧權の獲得――政治運動を目して無用の贅物なりとなす者に非ず、唯だ、之れのみを稱して婦人解放の問題を解くべき唯一の鍵なりと妄想するなきやを恐るゝが爲めのみ。

『女性』解放が單に「男性」の專横より脱し、この玩弄より自由たらんとすてふ簡單なる問題なりとせば乃ち止む。少くとも婦人の解放なるものが、婦人に對する舊道德、舊思想、舊習慣、舊信仰より「女性」を解放せんとすてふを意味するならば、選擧權の獲得――議會に於ける演説が果して幾何の効果をか齎すべき。

思へ諸君。選擧權を得たる「男性」が、之を得ざる「女性」に比して、果して能く幾何の自己解放をなし得たるかを。悲哉、「女性」の解放せられざるが如く、『男性』も囚はれた浮身を窶しつゝあるものを。

。　。　。　。　。

諸君、或は「女性」の解放は「女性」それ自身のみの解放によりて得らるべしとなすか。然らば、他を離れて「女性」それ自身のみ、解放され得べきものなるか? 否!

吾人は己に、人は社會を離れて、自己一人のみ限り無く滿足し、自己一人のみを解放し、自己一人のみを超越し得ざるを知る。「女性」が社會人類全般の解放てふ大問題を忘却して唯だに「女性」の解放が「女性」それ自身の解放のみによつて成し遂げ得らるべしと言ふあらば、彼の女は一の夢を語る人たるのみ。

今の世、囚はれつゝあるものは單に「女性」のみに非ず、「女性」を目して、以て、專横なりとなす「男性」それ自身も、人知れず苛責の鞭に喘ぎつゝあるを知らずや。女性といふ勿れ、男性といふ勿れ、今や人類を擧げて、皆、囚はれつゝあるなり。舊き道德、舊き思想、舊き習慣、舊き……の牢獄に!

。　。　。　。　。

「女性」解放の問題は女性それ自身の問題に止まらず、實に人類個性の解放を指示す。個性があらゆる束縛より脱却せざる限り、眞意義に於ける婦人の解放は來らざるなり然り、個性の解放は焦眉の急務にして同時に全問題の解放なり。

いざゝらば、敬愛なる婦人諸君!共に立つて全人類の解放に努力せずや……舊き道德、舊き習慣、舊き思想以つて綴られし、「舊き衣」を裂きて、捨つべく……。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

覺語

溪水

人生問題を解決して始めて覺悟するところあり、覺悟ある人始めて諸事を斷行す、萬事は人生問題の解決に發足す、覺悟なき人は、常に他人の讃否に戚ひ、恐れと僻見とを有し、其の信念も亦確定せず、自ら知らずして迷路を行くが如し、現今の婦人にして私かに覺悟するところあり、自己の信念により諸事を處理し得る者ありや、主義主張を胸に持して凛然獨歩せる婦人之れありや、罪惡をしりぞけ、誘惑に勝ち已れを全ふし得る者これある乎、優しく細き軀に、碎けぬ魂を認め得らるゝ者幾人ありや、とまでもしとやかなるは宜し、然かれども、否を認め得ざる從順は斷じて不可なり、覺悟ある人は、他人の否を見、同胞の罪惡を知り、友の辛苦を認めては決して自巳の生命をも惜まず、義に勇み、愛に身を擲げて、他人のために自ら犧牲となる、否を認め得ざる從順は、私欲なり、義なるが故に非らず、愛あるが故にあらず、現世の婦人は無覺にして覺悟するところあらず、慨嘆に堪えず

希望

女子の希望は、全たく虚榮と、情感を滿たすとのみに在り、以上に何等の欲望も理想もなきが如し、悲しい哉、女子は多く思索を努せざるなり、斷乎たる立脚地を有せず、あまりに他力主義たるなり、其の希望は、たゞに、夫の上、親の上、家事の上にあるのみ、眞に天職を感じ、自己を知り高き希望を認め得たるものは、甚だ少數なり、荒涼たる浮世を感じ、崇高なる理想を望む者は至つて少數なり、古へ其の高弟子も知り能はざりしも、聖者邪蘇をベタニャのマリヤは能くこれを認め、能く悟りたりしを思へば、女子なるが故に、高き理想に、憧憬し得ずと云ふことなし、只幾多年月の間に第二の天性となり、遺傳となりたる、狹量なる心胸、銳敏なる愛憎の感情が之の美德を損せる也、女子も亦人なり

日記の數節

長加部生

◎八月二十七日　晴れそうで仲々晴れぬ。

最愛の姪秀子を亡くして、アヽ最う丁度半年經つた。省みれば二月二十七日の朝だ。僅か九ケ月しかこの世の空氣を呼吸しないいたいけの秀子が、當時流行した急性肺炎に取り付かれて、一週の間、苦しみに苦しみ、悩みに悩み、遂に遠く逝つて仕まつたのは、その當時予は全く喪心して仕まつて、日毎彼の女のさゝやかな墓前に立ち、唯だ潸然として泣いてのみゐた。今とて思ひ起こしては涙は眼瞼を溢れて已まないのだ。尚ほ將來も長く〳〵この痛き傷に泣くことであらう。

來世の存在、靈魂の不滅、などいふたら識者諸君はその愚と蒙とを憐まれやうが、予は秀子に死なれて以來、どうしてもこんな信仰を持たねば居られなくなつた、否持ちたくなつて來た。そうして僅かに慰められてゐるのだ。甚だしき迷ひの子となるのも、愛するものに先立たれた悲悼愁傷のためだ。笑ふものには笑はせて置く。

◎八月三十日　朝は雨だつたが後に晴れて、暑かつた。

昨夜予は嬉しい夢を見た。そりや眞當に嬉しい夢だつた。予には十年相思の戀人がある、そして予はその戀人と二人して、或る夜某旅館に泊まらんとしてゐた。密會なのだ。所がそれが世間に知れ渡つた。が戀愛の自由を信じてる我れらは、些しも恐れはしなかつた、が我れらはまだ相抱かぬ前に、予の夢は破れて仕まつた。矢野翁ではないが「生命にも、まさりて惜しくあるものは、見果てぬ夢の醒むるなりけり」だ。俗に夢は逆夢といふが、アヽどうか本當に逆夢であつて、相抱かぬ前に破れて仕まふやうなことのないことを願ふ。が十年病風の予、現社會には所謂結婚の資格がなく我れらは相抱かぬ前に本當に別かれねばならぬのかも知れない。戀愛も何にも經濟的基礎の上に立つのだ、衣食の計をなし得ざる予には、戀愛も自由ならぬのだ。呪ふべき社會！　よし予が腕は瘦せて細くあるとも、折れて碎くるまでは戰はねばならぬ。

◎九月一日　晴れたり曇つたり降たり。

管野幽月女史より來信。過日の社會主義同志の夏期講習會に行つて、始めて逢つて、交はりを結んだ新らしい知巳だ。在京の砌、病といふ磁石力によつて引き付けられ、屢々黃昏、堀保子さんの椽側で、我れらはしみ〴〵病魔の辛き刺の鞭に泣いて囁き合つた。がまた翻つて我れらはこの病魔に打勝ち得る希望のあることを語つて、慰め合つた。がその時女史の口から溜め息と共に洩れ出た一語がある『唯だパンの心配だになければねえ！』　茲に至つては予は默してうなだるゝより外詮術なく、慰めの言葉も出ないのであつた。けふの書狀にも、『紅塵萬丈の俗都に、僅かのパンを得るために、苦い盃を味はつてる私共』といふ一句があつた。予は唯だ同情に泣くのみだ。

不治の病といふ肺病も、予は決して癒えぬものとは信じてゐない。癒やす手段方法を盡くすことが出來なくて、遂に悲しくも斃れて仕まふのだ。療養三昧に專心なるべき病者に、そうはさせなくて、世にパンを得るために煩悶苦惱さするのだ。病骨を抱いて衣食のために奮戰して、打ち死にして仕まふのだ。ア・病者に冷酷なる社會！！　如何に多くの兄弟姉妹が、日々この社會のために虐殺さるゝであらう。我れらはまづこの社會を變革せねばならぬ。社會主義は病者に根本的の救濟と慰藉とを與ふる福音だ。

まなざし

小野有香

一

詩人の高調、天をこめて
「清きよまなざし、明星それか」
文人枕をそばだて、微吟低唱
「狂瀾もなつかしむ君が眼眸に」
あゝやさしき眸よ、君が面影
深きは氣高き天國の影をやどし
影の底には聖靈ゐます。
聖靈はけがれなくして愛にゆたけく
不義に凶暴に、撓げず屈せず
電擊、石火、剛さやるなしと雖も、
義しき選り、弱きにはほゝえむ。
あゝ慕むべきかな、聖靈!!
爾が同情の力よ、あつき涙か。
冷たき世人はあざけらむ、
「世に涙を要すべき業やある?」と。
さなり世人よ、
汝の怪み、故なきにあらず、
懷疑、譎詐、陷計、凡て汝が價!。
あれ石さ冷たき現し世に
『事を成す、須らく涙を禁せよ』
之れ今日の處世訓なり。
疑心暗鬼の棲むところ
なまじ有情の涙ある
「成功」の躓き、あゝ悲しい世や。
さはれ汝が智、猶いまだ牢、
人のこゝろの砂漠と荒れ、
月は徒に冷虛の空に懸れど、
綠島の影・綠島の蔭、
之れで砂漠の涙の泉、
映すすがたぞ美の極、月影。

二

哲人は人の心性のよしあしを
泡を飛ばしてあげつらへど
人を愛する自然の熱情
大哲、聖は人の性、善!と
信じて乘る、愛人の致、
あゝ『信』なり、『信』なり、『絶體の信』。
人性、善と信ずるが故に
茲にはじめて偉業成る!。
誰れか克く人性、惡と觀じつゝ、
猶は人を救ふの道を講ずる、
笑止や、盲目の手鬼、淸盛の運命。
聖人愛を叫ぶ、必ず先づ涙あり。
迷へる衆生のこゝろあはれみ
胸にたゝゆる高尚の涙、
溢れて流れて弱者にそゝげば
見よ、滔々、決河の勢。
あなたふと、饑餓と渇えの幾なやみ、
生きんが爲の…世路に疲るゝ朝夕の…
苦悶、なやみもまたゝくひまに
慈眼愛憐、靄のとばり
あたゝき春野の夢に醉ふ。
あゝ偉なるかな、涙の價値!。

三

閃めく眼、やさしき眸
宿せる慈のくしき力よ、
人を呪咀の闇黑に閉ぢて
愛しき影の光明に微笑む。
神の子、聖のたゝへましけむ
「爾こそ地の鹽、世の光」てふ語を
移して我れは汝にこそ捧げめ、
「靈しき力の、汝れよ眼眸、
汝こそは實に世の光、地の鹽』。
溢るゝ涙は、汝の形相をよそほひ、
微笑む光りぞ、世を淨化せしむ。

四

涸れし涙の、人のすがたぞ
貪慾、追從、輕侮、嘲罵、
鬼相、魔形の面を傾す。
そは實に黑闇々の世にはびこり
驕りてうたふ拜金の魔歌、
この風すさび、この歌ひゞくや
いたる所、
何ものか耳をふさぎ
何ものか面をそむく。
見よ、瘦せさらぼひし走屍行肉、
輕き頭を地に下げて
趨るよ、趨るよ、「成功」王の臺前に。

五

神に感謝す、「涙」の奧義を
智者と賢者に堅く隱して、
迷へる弱き我等に示しつゝ。
思へ、義しきと淸きを
もとめて走る愛人の數、
慢らず、驕らず、
語らず、言はず、
謙遜、柔和、鳩のごとく
默然、不動、巖のごときも
鳩は禽鳥
よく分を知り、
苦悶す巖間を湧き出る眞淸水
これや渴仰の生命の涙。
たふときかな、涙の價値、
この涙を備ゆる眼をもてる、
弱けれど
我れらは、幸なるかな。

（未完）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

同情録

基督教會と余の知れる女性

林　孤森

看よや、亭々乎として蒼穹に接せん計りに聳立せる基督教會堂の、今や巷裡到處に散見せざるなきを

七日の旅路を終れば教徒は安息と稱して、日曜を固守す、爽快なる音樂は滿堂に溢れ會門を通過する者、誰か傾聽せざるをえんや、二人引の腕車會門の傍に軋轢を息むれば、盛裝せる貴婦人は、左手に洋傘を翳し、撫肩に風を切つて、石段を昇るを觀る、第二に軋る車輪の響き、轟々として碧空に鳴動せる乎の感を惹起す、旋踵にして顯視すれば一輛の馬車門側に止まる、時に胡蝶の如く車扉を排して現れしものあり、刮目以て熟視せば、何處の紳士にや、花然とも疑ふ計りの窈窕美人の、纖腕に擁せられつゝ、辛くも會堂に入れるの姿を瞥見したりき

彼等は其老若と謂はず、男女を擇せず均しく聖殿の下に聚集し、其蕾の如き口唇を開き、而して金音聲調もて讃美歌を歌ひ、熱誠滴々として椅子を濕ほす計り、悲調良聲もて祈禱せるを觀たり、而して博學高德度の心に富む牧師は、宛然生ける佛神の如く、溫順柔和なる容貌は平和の色彩をもて充され、自ら欽々然として、微笑を双頰に漂はし、徐々として壇に立ち以て會衆に面す、而して會衆も亦齊しく双手を拾つて敬禮裡に之れを迎ふ、嗚呼誰れか之れを目して聖と呼ばん、聖なる哉、聖なる哉と呼ばはるは誰れぞ、權門に媚び豪者の前に跪座低頭せる牧師よ、爾の日曜を固守し、會堂に到りて教を說く、そは實に貴人富者の爲めなる而已、然れど會衆は爾を歡迎して惜かざるなり、奇歟、怪歟、我其何故なるやを知らず、さはれ神は果して爾を祝福し以て永生を賦與し玉ふべき乎、牧師は自ら揚言すらく、我は己に信仰の科學的證明を得たり、何人も來りて聞へ、我之れに確證を與へんと、彼等群衆は牧師の口唇より迸出せる甘露の如き說教に深く心醉せり、彼等は其一言一句を聞くも、宛然天父の物語に接するかの如く、纖細なる事實をも賞賛するなり、會衆の歎聲は堂に充滿せり、然して其瓦斯臭き呼吸は次第に激しくなり會衆の腦裡には血液激り、其双眼は視力朧々として遂に眩暈の姿を表示せり、噫之れ宛然昔日の史實而かもシエリスピヤに由て描寫せられたる英雄シーザルが、アントニイの捧げし王冠を三度拂却し、其群衆の歎聲裡に臭き空氣の爲め卒倒せしの狀、今吾人の眼前に髣髴たり、牧師はシーザルには非ず、されど殺人劍を振つて成功の途に上れるは此點に於て頗似せるは勿論なり、否よ！牧師傳道師の業を彼等は皆く富者の爲めに、神の恩みを說き活人劍を振ふ、而して平民の兒を會堂より追放し、然して一面に於て精神的大殺人を斷行せるに非ずや彼等の之れを以て榮耀功達の希望を果さんと欲望せるは勿論なり、故に余は此處に古英雄を偲ばざるなり

基督教會の日曜己に上述の如し、故に香氣芳ばしき其庭は教徒に取りては、無限の希望と名狀し難き喜悅とに驅らるゝも亦理なきに非るなり

論議多岐に亘り、本旨女性に關する主張の多くを余せり、以後號を追ふて、基督教婦人開放に策路を開かん

元來新約聖書は婦人に其嶮輕からざる力能を賦與しつゝありき、佛教が極力女性の罪深き事を主唱せるの時、聖書は皆く女性の男性と平等なる事を示せるに非ずや、之れ諸姉の己に熟知せらるゝ處ならん、而して教會は次第に俗化し腐敗し以て到底濟度すべからざるに至れり、故に墮落せる教會に遂に一條の血路を開き之れに由つて其れを掩はんとせり、之れ即ち聖書の曲解なりとす、而して其標榜せる世界主義は却つて國家萬能主義の擁護者となり神聖なる十字架都合上隨順自在たるの便宜をえたりき

於之乎、聖書の力は湮滅するに至り却て翻はざる處の人の力に由り、曲解せらるゝに至りぬ、故に元來開放すべき婦人の心靈と肉體とを却つて羈絆し、其自由を拘束し、以て其行動を制限し或一定の範圍内に於て而已、談話交通、運動等は許容せられ、他は一切男子の狹小に其天賦の權能を蹂躙せられつゝあるなり

或は曰く今や婦人開放問題各所に唱導せらる、須く安堵せよと、然り吾人は此福音に接して心竊かに配慮を避けたり、而かも尙安心しえられざる方面あるを如何せん

蓋し形式的女性問題、概念的婦人開放は今や隆んに主唱せられつゝあるべし、是れ喜ふべき現象にして、余も又雙手を擧つて諸先輩の末尾に微力を添加せん事を期せん、されど之れ只に具體的、生理的たる而已にして、未だ曾て抽象的なるもの、心理的なるものは見聞する事寡きの感あり、換言せば、精神的方面に於ける婦人開放に着眼せられし先輩の、實に之れ晩天の星も啻ならざるを觀る、或は其一部を說き、其半面を論ずるの諸先輩なきには非るも皆これ余輩の希望圏外に偏し、勢ひ空宙に夢美なる、蜃氣樓を斷見すると異らざるの感を懷けり

於之乎余は將來に於て滿腔の熱誠を婦人精神開放に壇碎せんと決したり、余は勞働者の味方を以て自ら任せり、殊に婦人勞働者及少年勞働者は余が過去と現在と未來とに通じて、涙滴の種子となりつゝあるなり

乞ふ、深厚なる同情の眼をもて、次に執く少女の物語を閲け、少女は年齡僅かに十七、某宗教團體の一員にして、曾て淸純なる女性なり、世に幾多の悲慘事あり、余も又之れを知悉せり、次號に其實例を列擧し普く其徒に中る弊を警戒せんと欲すれども先づ緊要第一に、社會の呼んで聖人と稱しつゝある、基督教會と女性とに就きて說かん、今其少女が如何に苦悶せしか!!、余は只熱涕の痛々たるを感じたりき

（因に云ふ少女は目下麵麭と義務の板挾みの爲め傳道師として奔走しつゝあり）

東京通信

月郎庵

天高く馬肥え、南京米高く勞働者の手拔せ申候、資本家貴族の縱横は昨今の見物にて候、公侯伯子男の値へるに從ひ、稅金の高くなりたるには殆ど呆れ申候、此分にては貧民はドブ板を傳ひて廢介國を激るより他に方法無之かと憂慮に堪へず候、先達府會議員の選擧有之候か、中には選擧違犯も有之候、發狂人形の如き議員先生、府會議事堂の椅子に凭れて居眠を遊ばすには眞に好時季と存ぜられ候、近來世間は萬事沈底に候、日々に盛なるは造付木屋の店頭に候四五十輪の車は錢を列べたるが如くお客を待ち居候、此れは單に秋季となりたるのみならず、奢侈の増長に候、可憐な工女の血の滴にて織りたる絹布は、貴族富豪のオキヤン、ヘネカヘリ娘の虛榮心の犧牲と相成る可きと存候、革命來の日はオキヤン娘をまる裸にして垢臭き工女に着せ度きものに候

本鄕美術女學校生徒支那人の姿と相成候、然るに學校は忽ち退校處分を致し候、月郎庵主人、少々合點行き兼ね候、支那人も人間、日本人も人間に候、人間と人間が相愛するは別に異存無之きかと愚考仕候、英人と日本人と相愛するは、新聞屋さん之を稱して日英同盟と申し居候、人種の上から申せば日本人と支那人とは同人種に候、然るを支那人と日本人と相愛するを卑むはカントの學說を以て論ずるも相解り申さず候、而して美術學校の何とか先生は、助的の方には猛烈にて叱入られ候樣承り候、兎角天下は矛盾多きことに候

野口寧齋女を兎や角申す人有之候へども、そは總て人の捏造致したると相解り申候眞に彼女は今！の言葉を藉りて云へば、貞女に候

中川愛氷と申す男は、何時の頃よりか頻りに詩人野口寧齋氏の家に參り始め申候、近處の人々不審に取れ居り候得しが、そは下心あることにて、實は寧齋女の甘心を得んとのことに候由、妻子のある愛氷としては誠に不屆千萬に候、遂に肱鐵砲を頂戴致して、寧齋も御中止致し候趣き、近來の大評判に候、愛氷先生とは家賃を拂はざることに於ては、天下に有名に候、此先生は目下女鑑の編輯人に候、故に女鑑購讀の節は眉に唾を塗り、南無阿彌陀佛を三度誦して、繙く可しとは海老茶連中の金言に候

ユニヴアサリスト

第二卷第九號出たり　一年分四十錢

△迷信を打破し歷的憧憬の消息を傳へ△科學宗教調和の新信仰を鼓吹し△現代に適應すべき新道德の扶植を計るは本誌の特色なり△一年分に四十錢を添えて申込むものには村田勤譯「萬民救濟の福音（定價壹圓五拾錢六百余頁の大冊）」を進呈すべし

東京小石川區小日向臺町二ノ二七

世光社

外科皮膚病梅毒痳痔

診察　自午前九時　至正午

獨國醫學士　加藤時次郎　桑原慶太郎

東京　新橋　加藤病院

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

幸福なる女子

仲居　およし

斯ふ申しましては生意氣な女とお叱り遊ばすかも知れませんが、實の處、私は自分で最も幸福な女だと存じて居ります。小料理屋の仲居風情が、其境遇を自慢話しにするとは、マア飛んでもない馬鹿々々しい事と、思し召すでしやう。或は職業上から致して墮落して仕舞ひ、女の道を心得ぬはした女の、勝手な世迷言を吐くものと、お蔑みがあるかも知れません、併し乍ら、實は私も近頃迄はそんな考へを持つて居りまして、お金のある家のお嬢さんや、夫人や、乃至は舅姑に仕へ、小舅小姑の氣嫌氣褄を取つて、一人の亭主を守り、一家の嫁御として日を送るお方々の身の上を、羨やましいものと思ふて居りました。ですから、私は自分で思ひました、女と生れて正しき女の道を踏まず、賤しい商賣をして居るのは貧故とは申し乍ら、先祖に對して相濟まぬ一日も早く身を固めて、一家の主婦となりたい、堅氣の女と世間から云はれる樣になりたいものと、面白い時にも悲しい時にも、私の心には始終それが充ちて居たのでムいます。それが貴方、或るお方から今の社會の仕組が間違つて居ると云ふ譯を承りまして、當分の内は色々と考へ煩いも致しましたが、充分にそれが腹に這入りまして以來は、今迄の「人が羨しい」とか『自分が賤しいもの』とか申す考へは、拭き消す樣に無くなりまして、今は反對に私は最も幸福な、左樣、今の世では一番幸福な身の上であると云ふ事が、私の心を占領して仕舞つたのでムいます。

私が斯ふ申しますのも、唯だ理屈一片の冷い心からではないのでムいます。私は無學ですから理屈などは勿論存じませぬ。一二度世の中の道理を承りましてから、朝に晩に、眼に見、耳に聞きまする出來事、近所合壁の御婦人方、世に曰ふ堅氣の御婦人方の有樣を拜見しまして、自分の身の上に較べまして、不つゝか乍らも心の底に染込みました事がありますので、獨りで斯樣にきめて居るのでムいます。左樣、一々申上げるも大層ですが、私が偶お座敷の掃除などを致して居りますと、小綺りしたお衣服に鰕茶の袴を穿いて、本の包みを抱へて、お友達と何か話し乍ら、表の街道をお通りなさる女學生の方があります。すると私は其お方々の身の上を自分に比べて考へるのでムいます。先日も新聞で見ますれば「女學生が大學生を好いて、進んで交際を求める者がある。怪しからぬとであるから其節の取締を要する」など、書いてあるのでムいませう。如何に裕福な御家でも、女子と生れて來ては三界に家なしとやら、學士達が月給口をお搜しになる樣、金のあるお婿樣を求めるのは當り前ではムいませんかそれを貴方、警察などで取締つて卒業の後に見も知らぬお方の處に嫁入りせねばならず、一度嫁入したが最後、厭でも嫌でも一生涯一人の御亭主を守らねばならぬ身の上でしやう。今の女學生の方などは、好し勝手に情人をお拵へになりましても、見込む所は未來の學士とか博士とか、百圓とか二百圓とか、そんな身の周りの事ばかりで男子の氣象とか人品とか、何にせよ身から切り離すとの出來ぬ男子の玉を見拔く眼玉は、失禮乍ら少しもないのでムいます。私などは、お金は自分で儲けて使ひますから一人の男子に身を任せて一生を樂に暮さして頂く必要もありませず、男は朝から夜まで、掃き棄てる程交際しますから、お金や肩書位なもので心を動かすとはありません偶に人品氣象の氣に入つた方がありますれば、お互に慰みも致しますが、そんな人は滅多にあるものではムいません。其お互ひの仲も心の欲する儘ですから、氣の向かぬ時に無理に勤める樣な苦勞も入りませず、一生涯離れてはならぬと申す樣なとは無論ないのですから、どの位幸福か知れやしません。よく女の操がどうのこうのと仰しやいますが、氣に入らぬ人や、氣に向かぬ時にお勤めするのが何で操ですか、私などの操は、自分の心の自然に從つて男と交はり金や義理の爲に身を汚さぬのが眞實です。世間の事では男子が威張りますから、此道だけは女子の方で威張つてやるのが本望です。それが氣に入らぬならば此方から御免蒙るだけの事です。私などはさうする方がよろしいので、『あれは堅い』と云はれるのです。女學生の方などがそんなとをなさろうものなら、直ぐ墮落生として三面記者の筆に上らねばなりますまい。先生如何ですどちらが女子として幸福ですか。

それから、町家の主婦です。私の近所で先日大層大騷を張り上げて夫婦喧嘩をして居りましたが、これなども氣の毒なもので、す。一旦嫁入した以上は、まるで無賃の雇人で、夜に日を次いで稼いで譯の分らん年寄や、我儘な婿さんの御機嫌ばかり取らねばならず、心から笑ふ樣な事は年に一つもないのです。春秋の里歸りに一日お母さんの膝下で遊び暮すのが何よりの樂み、それも長くなれば姑に氣兼をせねばなりませず二日も逗留すれば店の仕事に差支へるとかで迎への人が來ると云ふ始末なのです。殺せ活かせの喧嘩をしても、翌朝からは心にもない笑顏を作つて、苦しい勤めをせねばなりません、ですから何時見ても浮かぬ顏付きで、眼の底には憂いの雲がかゝつて居ます。雜貨店にしろ、菓子屋にしろ、其他色々の店がありますが、町家の嫁さんは、私の見る限りは、誠にみじめなもので、氣の毒でなりません。其人々は、こんなあり樣で長年經つて姑になるのですから、人情は曲りくねつて、親切氣のない、賤しい鄙さんになるのは今から知れて居ます。女は斯ふした者と、あきらめて仕舞へばそれ迄ですが、私などから考へると馬鹿々々しくて叶ひません。私は死んでも町家の嫁などにはなりませぬ。

私はなるとならば長く今の商賣をして行きます、そして月々の收入は儉約して貯へて置きますれば、不時の災難に備へも出來ますし、飛び離れたとさへせねば、先づ安氣に暮して行けます。人樣は賤しい商賣と云はれませうとも、自分を無い者にして舅や小舅の犧牲となつたり、金や肩書の爲に身を賣つたりするよりは餘程貴い、そして幸福な者と存じます。

倘ほ申上げたいとは色々と考へて居りますが、又をりがありませうから、今日はこれで擱ます。

籠の鳥

孤舟

「おい仲居さん鳥が出るよ」。オー何たる殘忍な冷酷な暴言であろう。而も彼等は平氣なもの、いや却てそを非常な讚美もて歡呼してゐる。噫！何たる沈痛悲哀な狂態であろー。親は拋着て子は吉原に櫻花かや散りこ、神は最初から同じ子に何でそんな愛憎の背の子腹の子があらう、見よ五風十雨草木はごくむ大能の攝理は、其初めから横には降らさぬけれど風が邪魔して……大自然の頗致を、わざと時に或は天變地異の災禍を下すを徒らに形而上形なき影を追へる煩悩の子は天災だ不可抗力だ人の力の逆も亦奈何ともすべからざるものと早く諦めてしまふ或は只徒らに狼狽して泣き叫ぶ迷へるものかわる、又或る者は、深く疑つて究めて遂に堅き信仰の神が御旨の光明に接して果てしなく情慾の淵に沈み行く可憐の子等を『覺めよ悟れよオー汝、罪害悔ひよ改めよ』と聲を涸らして御手伸べて絶えず呼び返し給ふ大御聲の暗示であると我が主の限りなく慨増しに愛し給ふ成熟時期の神秘の妙に先づ感憤しそして悟るであろー。暗黑に泣く子よ光榮に笑む子よ、オー可哀の姉妹よ、卿等は道を開くべく其耳は最早飾りに汚れて聾せるか、吁！さるにても折ふしは「地位や名譽や何のその況して飢や蓄衣に……、血あり涙のある人と添ふて樂しく永く――』オーさなり好い哉これある哉然れども男！然れども優し姉妹よ眞に斯の人が今の世に果して幾人かある、彼れを思ひ是れを考ふ誠に卿等は「籠の鳥」であるのだ而もおもへよ籠の鳥や食ふに餌あり飲むに水ありそして彼等は狹き乍らも思ひの儘にそが特性を發揮し休むも眠るもおのがじし倘ほ其自由があるではないか、翻って卿等や如何に！粧粉紅飾われもなう神が與えし自然の純美は影もなく陋劣汚穢これ事として『一時間金二十五錢』オーげに貴重な時も銅臭劇烟と卿等が血と肉は消削されつ強賣の厄に遇ふ噫！叱！あゝ已まんぬる哉饑えたる者に投石拋やかくて卿等はいづく迄辛ふじて其口を糊塗するのかやオー心にもなき從笑やら愁波やら媚字に打たせて、『オイ仲居さん鳥が出る』との掛け聲に歡呼やら呪咀やら『鳥でも出るわ』とは……渾身の熱血は凝つて暫し涙も出で滯かずオー繊弱き卿等よ敗餘の姉妹よ優しきだけ弱きだけより多く紅涙はたばしり迷へるだけ苦しむだけより多く血涙は躍る、あなおぞましの世の樣や、あな憂れたしの制度の厄やオー嘆るよ呻吟よ此の腕が、叱！喝！

救神者自助者　女子先自不可非立

社會主義 金曜講演

▲毎週金曜日午後六時半神田三崎町三ノ一（東京座より八七軒）吉田屋にて▲毎回、堺利彦、幸德秋水山川均等▲講演後は質問、或は談話等隨意▲社會主義は男女間の絕對の平等を主張す▲男女共來會御隨意

（會費金五錢）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

石川三四郎兄より

諸兄姉御變り無きや△獄中では此二三日メツキリ寒くなつた△此頃は毎夜窓の下にすだく虫の音が秋の哀を談つて呉れるので思はず冷たき枕を濕ほすこともある△先日は非常な出水で貴家も浸水の光榮を辱ふした由奥さんがアラマーなぞと困つて居る所を拜見しなかつたのは甚だ殘念だ△之れ迄では無い近い内に人間の大洪水が出て罪惡に充ちたヘイカラ都人士の周章狼狽する時が來るぞ△先達面も話したことだがドウぞ一生懸命で商賣をヤツて貰ひたいものだ併し無理をしてはいかぬ、又相變らず僕の注文は十字架だ、十字架を負ふて行く時は何事にも無理をせぬ樣になることが出來やうと思ふ△十字架ほど怖いものは無いが一端覺悟したら之ほど樂しいものはあるまいと思ふ△此頃釋迦御一代記といふ古い草双紙を讀んだ、中に悉達太子が『身を顯して惡鬼の口中に飛入り玉へば不思議や惡鬼が口裡の利齒忽ち八葉の蓮花と化して安座させ奉りぬ』と言ふことがあつた、實に善い教訓じや無いか△木下君雜誌發行の由、之れは日本の社會にも木下君自身にも無くてならぬ事業だ、ドウぞ其確信と熱實とを以て勇進して貰いたい、是は常に僕のみの希望ではあるまい、御序の節同君へよろしく御傳言を乞ふ△先日宮崎虎之助君御夫婦が面會に來て呉れたが、生憎事務閉鎖故であつたので傳言だけに接した、深く御厚情を謝す、同君の着物や名刺に『豫言者』と記してあつたとのことで、取次の部長さんが少々驚いてた樣だつた△淀橋の林孤舟君から眞紅の絹糸を編んだ十字架の枝折を送つて呉れた、三百年の久しき間彼の强大なる羅馬政府と戰つた古の使徒たちの身上を思へば一年や二年の獄中生活は何でも無い、同志の厚情に接する毎に僕は冷汗が出る△。堺兄よりの婦人問題、西島兄よりのオルチールの小著外一冊、神崎兄よりの『僕の生涯』、米國の小成田兄よりのマザー、イース其の他及び伊藤證信兄よりの『時習』皆先月中拜受、幸徳兄よりの三冊は本月初め拜受、御厚意を謝す△戸恒君は毎週必ず一度宛書面を與れる、兄よりも宜く禮を言ふて呉れ給へ△先月御願ひしたヒストリー、オブ、モダーン、フイロゾフヒーは當分見合せて與れたまへ、僕の本箱にあるソシアリズムイン、イングランドを至急差入れして戴きたい△僕は先月來歴史の研究に專心して居る漸く佛國革命、英國産業革命まで大略を終へた、之から十九世紀の本舞臺になるのだ本年内に一通りの研究を終りたいと思ふ△哲學的研究は明年から初める積りだ、其時は種々の注文が出るだらうが、御迷惑でも書物の方を引受けて呉れ玉へ、相變らずのことだが大分厄介になる△福田も大分厄介を掛ける樣だが、何とも申し樣が無い、幸に近來彼女の精神上に少し進歩の兆が見える樣だが、併し何にしても若き時より荒らし果てた彼女の心田は到底一朝一夕に開拓することは出來ぬ△洪水以來谷中村民、田中翁、星野君の身上御變り無きや、嘸勞苦の多いことであらう、深く謝す△福田姉に申す、呉朝男女史の都合がよかつたら何時か面會に伴ふて來て下さい△横田君は其後如何せしや、遠藤君は尚ほ故山にありや

▲舟木孤舟氏より　月の色虫の聲世は秋になりました、秋最高く馬肥えて意氣亦昂ると人はいふに信念に燃えて理想に焦れて而も職を求めて流浪の身は流れ〳〵て兩三日前虎狼の本陣たる門司に打寄られました、當地は勞働者を以て立つの地殊に侍姉の後へに附して二萬爰々たる可憐の子女が然り我等が姉妹が生活的の黄金の網に縛せられたる廓の樣見ては嗟き！嘆息の外なく、わけて『オイ仲居さん鳥が出ろよ』との無血虫が暴言を聞いては渾身の熱血は勃々と燃えて双の鐵腕は覺えず鳴動するのです何卒前稿『龍の島』を餘白に埋めて下さい過般別府よりの投稿御落掌下さいましたやら姉妹のため御自愛を禱ります

▲原丸氏より　拜啓貴社益御隆盛奉賀候小生其後韓國内地視察の爲め各地方へ出張致居頓と御無沙汰申上多罪の段奉謝候、今度當地に戻り左記に居住致候間御承知被下度候、今後は毎回御通信申上候間可然願上候小生韓國女子教育の事に付多年研究罷在候へば種々の事情に餘儀せられ未だ其意を遂げず殘念至極に御座候自然他日に於て何かと御助力を可仰時も有之候事と存候間其節は可然き願上候

社會主義金曜講演と婦人

社會黨の堺利彦、幸徳秋水、山川均氏等の發起にて、毎週金曜日夜社會主義に關する講演會を開けるとは本誌の廣告欄にも見えたるが、同會は去二十七日第四回の講演を開き山川氏の『社會主義運動の歴史』堺氏の『現代人物鑑別表』と題する趣味ある講演あり、講演後は同志來會の印度の志士スーレン・ボース君の演説あり、故國に於ける英國資本家政府の暴虐を説き、印度革命の機近づけりと云へり、同會の講演は、一つは深く社會主義を研究せらるゝ諸君の爲に、一つは初て社會主義を知らんとする諸君の爲に毎回二樣の主題を撰擇して講演をなし講演後は來會者より自由に質問感話等あれば、舊き同志諸君の爲にも新しき研究者の爲にも最も有益なる會合なり、社會主義は男女關係に就ては絶對の平等と自由とを主張するものにて、眞の婦人解放の運動は社會主義の運動と伴はざる可らずとは吾等の信ずる所なるが、殊に堺氏の如きは社會黨中にても婦人問題には特に志を致され、多年の研究を積まるゝ方にて近著『婦人問題』の如きは日本にて婦人問題に初めて眞個の解放を與へられたる書なり、されば同講演會にても大に婦人問題が論議に上る可く現に婦人の來會者も毎回數名あり、殊に今後は本誌の社友なる神川、大須賀の兩女史本社の福田等も其他の同志婦人の諸姉と共に同講演に出席して、大に婦人解放の氣焰を揚ぐ可き筈なれば、之に依て社會主義運動の上にも婦人解放運動の上にも一新機運を開くに至らんとこそ望ましけれ

九月二十九日　女史は昨夜九時四十五分の列車で新橋を立たれた、京、大坂から中國すぢへ向ふ御つもりである、今日は日曜とて某青年二人來訪せられ、帶封を整理して下さつた、自分は此の日一日を編輯の雜務に追はれてすごした、夜は更けて、虫の音かしがましく、下弦の月いと青く、東の森に樹ごまに光りを走せた頃は、もう十二時半であつた、サラ〳〵と鳴る梢の風は物すごい、犬の遠吠も聞える

九月三十日　月曜日なり、學校の授業を終へて廣告取りに廻つた、一つも取れないで歸つたのが午後五時すぎ、煩はしき編輯の雜務にかゞづらうて時のうつるを覺えず、寢られぬまゝ外の面をうかゞへば、夜半一時の天地は靜寂にして、星の雨、虫の愁唱、秋のあはれは、此の夜を領して、月は今登らんとする、野菊のベッドに丸ろき白いのが幾つ、松影に見える、さすが夜寒の風が肌にしみる、隣りの瓦斯燈が消えさうだ

十月一日　昨日は三軒とも廣告が駄目だつたので、今日は大奮發で神田、日本橋、京橋、麴町を跋渉した、然かし駄目だつた例の定文句ではねつけるのだもの、有樂社では『まあ考へて戴く』、なんて、ゼイロクパック的な一句に煮へ切らぬ御返事であつた、編輯は木曜日、廣告は金曜日で〆切る筈だ、此の十八號はおくれたが次ぎの十九號は豫定通り十五日には發送してしまうつもりだ、何にしろ雜誌の編輯はむつかしい身體が疲れたので十時には床につくつもりで居たが、モウ十一時を過ぎてしまつた、角筈の夜は靜かに〳〵、永遠に浮ぶ瀬なき亡びの淵に落ち入つて行く樣

十月二日　雜誌の内容略まとまり、其の體裁も亦略成る、明日は〆切りだ、廣告取りと編輯と其他の雜務と、學校とをひかへて、中々忙がしい、我等幼弱なる輩の、すべて人の意に滿たざる多きを思ふ、されど我れ等は全力を盡すつもりだ、十九號は質の充實に努めるつもりだ

十月三日　安部先生から原稿を得て、もう後は技術をのみ要する時となつた、餘白が總計二段半ばかり出來た、原稿は深山集つて居るが、之れに合ふのがない、そしてこんとは非常に記事に重きを置いたから大分むつかしい、とても明日にまだ印刷屋へはやれない、發送は八日を過ぎるだらう、讀者諸君の御許しを乞はねばならぬ

十月四日　明日は原稿を印刷屋へやるつもりだ、編輯の難産も、やつとおりきわになつた、今日は心にくき程の晴れやかさ、非常に暖かであつた、けれどまことに日が短かくなつた、午後六時には燈火をつける樣になつた、思ひ出した、今例遠くに『もず』を聞いた、秋だ、

虫鳴くや文字薄らげる四書五經

ぽつつりと鼻緒切れけり秋の暮

と云ふ二句、友の書翰にあつた

編輯の手が少いので原稿を其儘印刷やへ廻す故、文字が解らぬと云ふて小僧さん達がブツ〳〵云ふて居た、お互に無理が無い

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此男女間の大文字を讀まざる人あるや

婦人世界

九月一日發行　二卷　第拾號　壹冊拾錢　郵税五厘　六冊五拾錢郵税壹錢　拾冊九拾錢郵税共

△本號には千圓を面白く分配する大懸賞募集あり

◎果物を小兒に與る注意…博士　加藤
◎我は如何なる妻を望むか
◎私の感心せる奥様（小脇）
◎娘を嫁に遣りし實驗（原）
◎辨當の料理　弦齋夫人
◎少女欄益々好評小說以上

出たり　**男女戀愛論**　村井弦齋

△眞の戀愛は如何なるものぞ
△男子の戀愛は如何なるものぞ
△女子の戀愛は如何なるものぞ
△日本人は情と慾といづれがつよき
△東西婦人の愛情は孰れが濃やかなる
△戀愛は果して神聖か

◎大困難と戰ひし楜橋刀自
◎女中より成功せし主婦…
◎不妊症全治實例…榊博士
◎男は如何にして產まるか
◎強情の子供を矯正せし實驗
◎感心な女學生（校長直話）

▲口繪▼名家令夫人◎名流令孃◎新婚寫眞◎其他種々

◎弦齋夫人の料理談　價六拾錢　郵税八錢
◉家庭菓子製法　價五拾錢　郵税六錢

東京京橋南紺屋町十二　實業之日本社　振替三三二六番　賣捌各地書店

養雞新報

養雞は家庭の必要生產物にして又婦人の純好副業たり我が養鷄新報は從來の雜誌とに其選を異にし趣味豐富にして實益の記事多く養鷄の方法を通俗懇切に傳ふるを以て主旨とす故に我が養鷄新報は專業家たると副業家たると將又愛翫を主とせるものとを問はず苟も一羽の鷄を養ふ者は讀で趣味あり實益を得る好雜誌なり

●毎月一回廿日發行●定價一ヶ月五錢一ヶ年五十錢郵劵代用一割增

發行所　東京府豐多摩郡淀橋町字柏木　養鷄新報社

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を增し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

定價　大瓶廿五錢　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

本舖　ライオン齒磨發賣元　東京神田柳原川岸　小林富次郎

應需肖像畫

神田區美士代町一番地　浦田鳥城

新築落成移轉

小兒病　內科　外科　診療

府下淀橋町角筈（水道前）　淀橋醫院　竹下繁太郎

小兒科　內科　婦人科

每日自午前八時至午後六時

淺草區馬道三丁目　小牧醫院

宮川己作先生著　新約聖書　加拉太書研究　上製一圓廿錢　並製一圓　郵税八錢

北米加州沿岸日本人長老教會傳道監督　イー・エー・ストーヂ博士序文　稻澤謙一、平塚勇之助兩君譯　●四福音書研究　上製卅五錢　並製卅錢　郵税四錢

松野菊太郎先生編　新約聖書　●默示錄畧解　正價五錢　郵税二錢

杉橋吉之助君著　諸病治療及諸法術原理　●思念術（寫眞版入）　定價三十錢　郵税四錢

石出精一著（新刊）●平民講壇　定價二十五錢　郵税二錢

著者生來虛弱なりしが中年に及び故天然居士桑原俊郎先生の門に入り精神療法の奥義を究め今や頑强なる人に勝れる身となりしを喜び且つ故先生の高恩を紀念せん爲に玆に此書あり世の心身の健全を重せらるゝ士幸に一讀の榮を給へ

發兌　東京神田區猿樂町二五　中庸堂商店

日本社會主義機關　堺利彥、幸德秋水、山川均、森近運平等責任執筆

大阪平民新聞

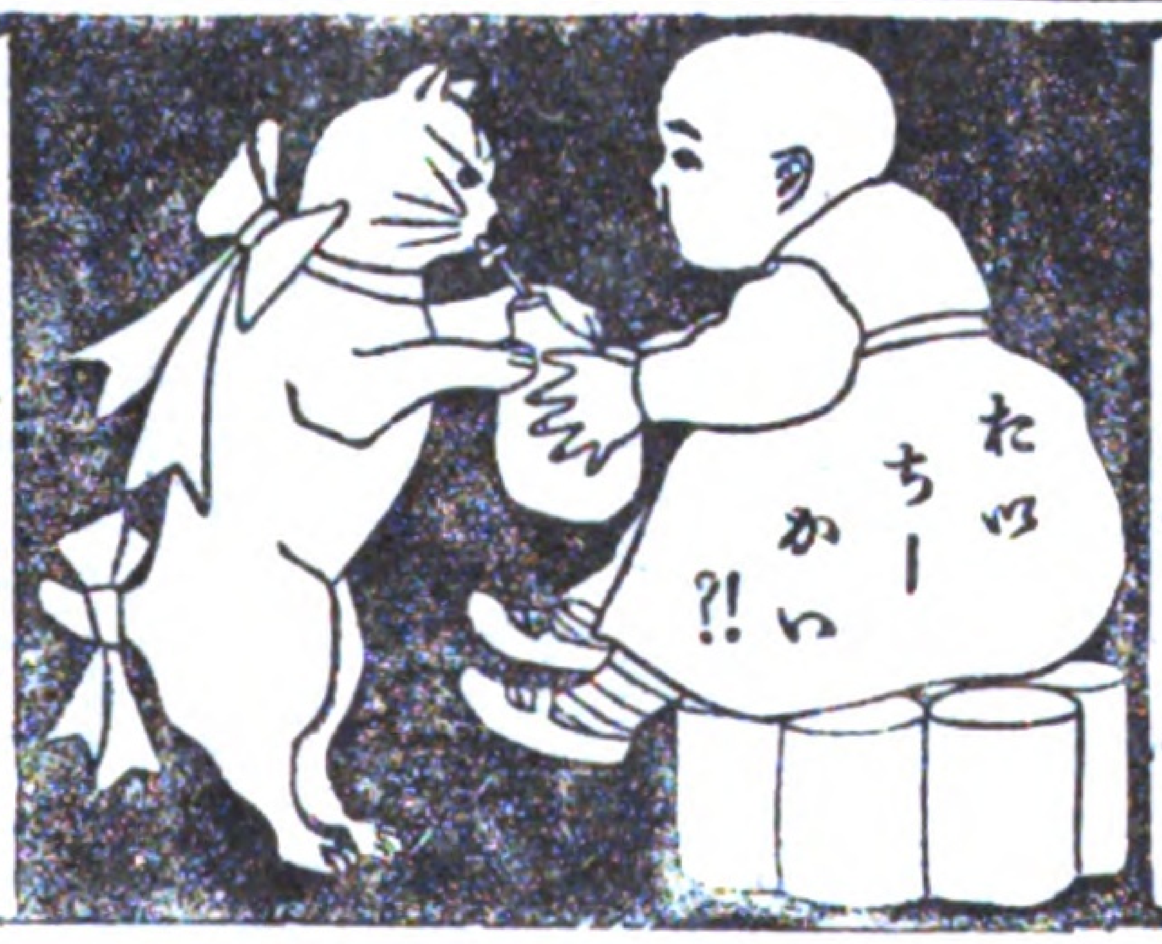
每月二回、五日、廿日發行

定價一部金五錢、半年分前金五十五錢、一年廿四部一圓五錢、郵税不要

大阪市北區上福島北三丁目一八五　大坂平民社

第九號（十月五日）要目◎東京評論第三信（幸德秋水）◎第七回萬國社會黨大會詳報（堺利彥）◎嗚呼帝國の光榮、大阪のストライキ外數項の關係（クロポトキン著森近運平譯）◎小說勞働者の夢（フオーセツト著本社譯）◎柏木通信山川均）◎嘘過勞（覓牛）◎無名の運動（横田西峯）◎秋風吟（俗體詩原霞外）◎平俳句◎新講談大搗平八郎（李花生）◎運動消息數項

世界婦人の讀者にして新に初號より注文する方へ特別割引　半年前金五十錢　一年九十五錢也



伊豆三島花島煉乳場製　名譽ある金鷄ミルク

發賣元　東京市日本橋區大傳馬町　逸見山陽堂　（電話浪花二一五番）（振替貯金口座三九六番）

博眞堂活版所

●敢て代價の競爭を爲さず、誠實を旨とす●公共團體教育慈善的の者は割引す●印刷鮮明●校正嚴密●期日正確●多少に拘らず注文を乞ふ

神田區豐島町卅九番地　同町卅四番地

舶來「鷲印」にも劣らざる　キンシ金鷄ミルク

發賣元　東京日本橋大傳馬町一　逸見山陽堂　電話二一一番

腦病、脊髓病　神經病、精神病　專門治療

土地高燥　閑靜　電氣治療　マッサージ　水治

東京田端　田端停車場西二丁　東京腦病院　電話下谷二三〇一

院長　後藤省吾

齒科治療　自午前八時至午後六時

吉瀨齒科醫院　院主　吉瀨才市郎

東京神田須田町二十六番地（萬世橋內右横町）

●藥價手術料共半額　●貧困者施療

◎定價　△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢　△申込は總て前金の事　△郵税當方持

編輯兼發行人　東京府豐多摩郡淀橋町字角筈七三八番地　神崎順一

印刷人　東京府豐多摩郡淀橋町字角筈七三八番地　遠藤友四郎

發行所　東京府豐多摩郡淀橋町字角筈　世界婦人社

印刷所　東京神田區豐島町三十四番地　博眞堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY